

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

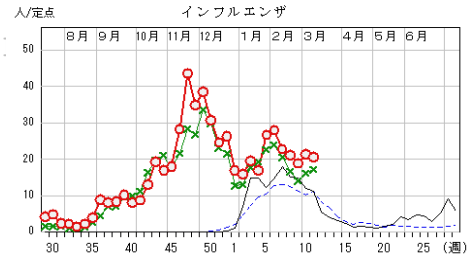
2024年第11週 2024年3月11日（月）～ 2024年3月17日（日） 2024年3月22日作成

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）インフルエンザ

第11週の報告数は1420人で、前週より58人少なく、定点当たりの報告数は20.58であった。

年齢別では、10～14歳（518人）、9歳（142人）、8歳（118人）の順に多かった。定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（35.76）、県北保健所（28.75）、県央保健所（18.80）であった。

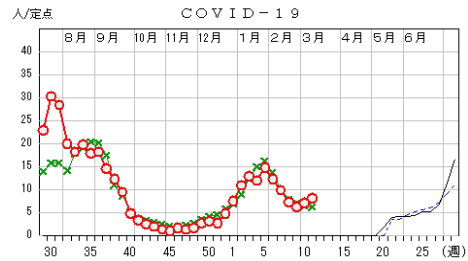


### （2）新型コロナウイルス感染症

第11週の報告数は564人で、前週より76人多く、定点当たりの報告数は8.17であった。

本調査における年齢別では、10～14歳（64人）、30～39歳（63人）、80歳以上（61人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（34.00）、上五島保健所（17.67）、県北保健所（11.00）であった。

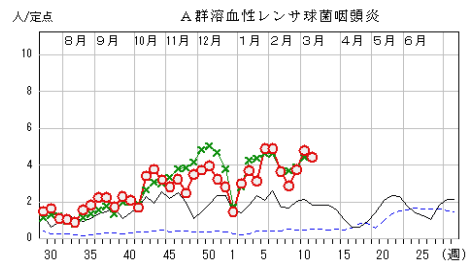


### （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第11週の報告数は190人で、前週より16人少なく、定点当たりの報告数は4.42であった。

年齢別では、10～14歳（31人）、4歳（25人）、6歳（24人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（17.20）、対馬保健所（5.50）、五島保健所（5.33）であった。



○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      - - 前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【インフルエンザ】

第11週の報告数は1420人で定点当たりの報告数は20.58となりました。依然として、警報レベル終息基準値「10」を上回っており、17週続けて警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別では、長崎地区（35.76）、県北地区（28.75）、県央地区（18.80）は、警報レベルを維持しています。また、佐世保地区（18.27）、西彼地区（17.83）、県南地区（17.25）、壱岐地区（13.67）は注意報レベル基準値「10.0」を超えています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第11週の報告数は564人で、前週より76人多く、定点当たり報告数は8.17でした。地区別では、対馬地区（34.00）、上五島地区（17.67）、県北地区（11.00）は他の地区より多くなっています。今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第11週の報告数は190人で、前週より16人少なく、定点当たりの報告数は4.42でした。地区別にみると県南地区（17.20）は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので、今後も予防に努めましょう。

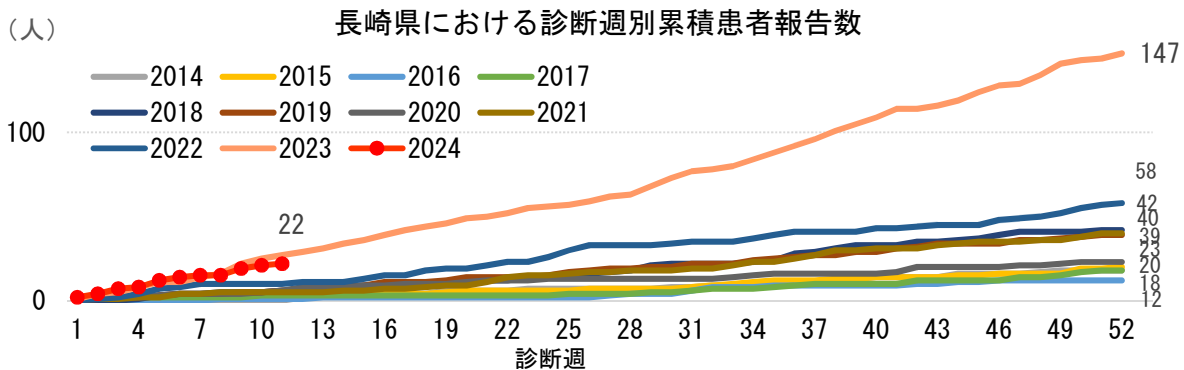
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：梅毒の患者数が増加しています

長崎県では2023年に147件の梅毒の報告があり、現行の調査が開始されて以降、過去最多の報告数となりました。2024年は第11週までに22件の報告があがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けられます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

発生状況は、[長崎県感染症情報センターホームページ内「梅毒の発生状況」](#)に掲載しています。



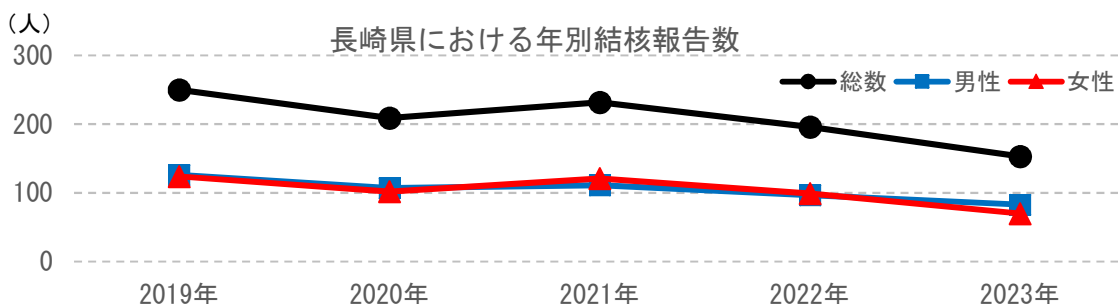
☆トピックス：3月24日は世界結核デーです

世界保健機関（WHO）は、細菌学者ロベルト・コッホが1882年に結核菌の発見を発表した日にちなみ、毎年3月24日を「世界結核デー」と定めています。

結核は、結核菌の感染により起こる感染症で、多くは肺に炎症を起こします（肺結核）。肺結核の症状は、咳、喀痰、微熱が典型的とされており、胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振等を伴うこともあります。また、肺以外にもリンパ節や骨・関節、腎臓などさまざまな臓器に病変を起こすこともあります。

長崎県では、人口10万人当たりの結核罹患率が例年全国ワースト10位に入っており、2022年はワースト3位（10.7）でした（全国平均は8.2）。

結核は、早期発見・早期治療が重要です。咳や痰、微熱、体のだるさなどの症状が2週間以上続く場合は、医療機関を受診しましょう。



★トピックス：インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

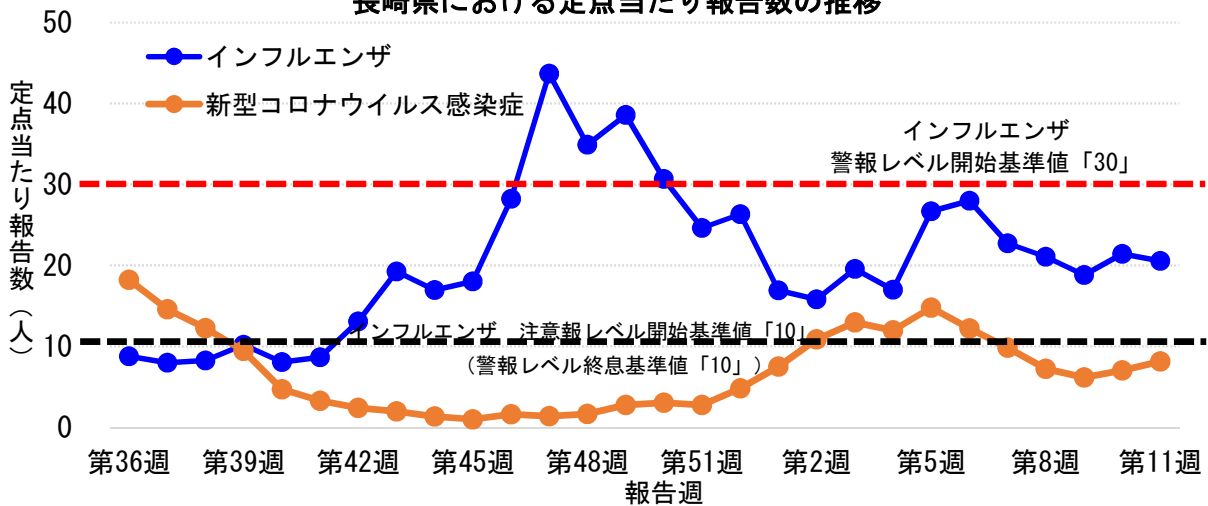
インフルエンザの2024年第11週の定点当たりの報告数は「20.58」で、依然として警報レベル終息基準値「10」を上回っており、2023年第47週（11月20日から26日）以降17週間、警報レベルを超えた状態が継続しています。地区別にみると、10保健所中3保健所（長崎市、県北、県央）で警報レベル、4保健所（佐世保市、西彼、県南、壱岐）で注意報レベルとなっています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「8.17」で、2週続けて増加しました。

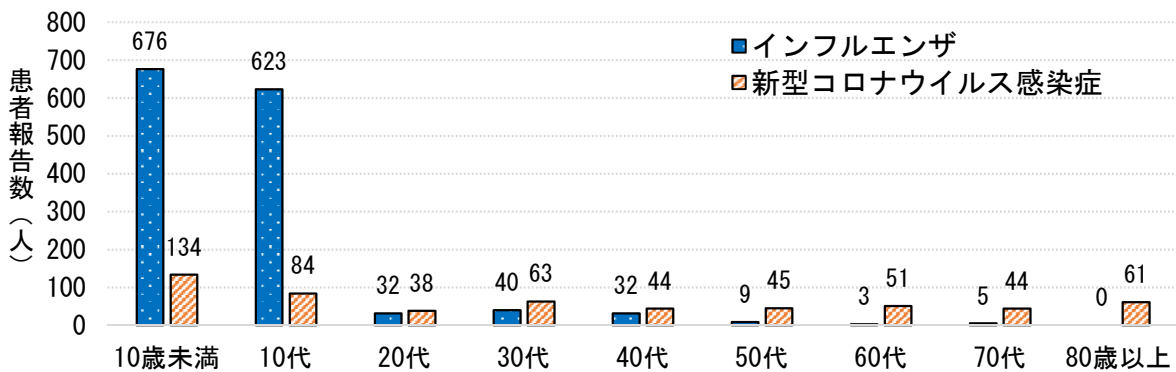
インフルエンザの直近3ヶ月の亜型・系統別の検出状況を見ると、A/H3、A/H1pdm09、B/victoriaの3種類が検出されています。シーズン当初はA型が多く検出されていましたが、11月以降B/victoriaの割合が増加しています。今シーズンは、複数回インフルエンザを発症した症例も報告されています。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

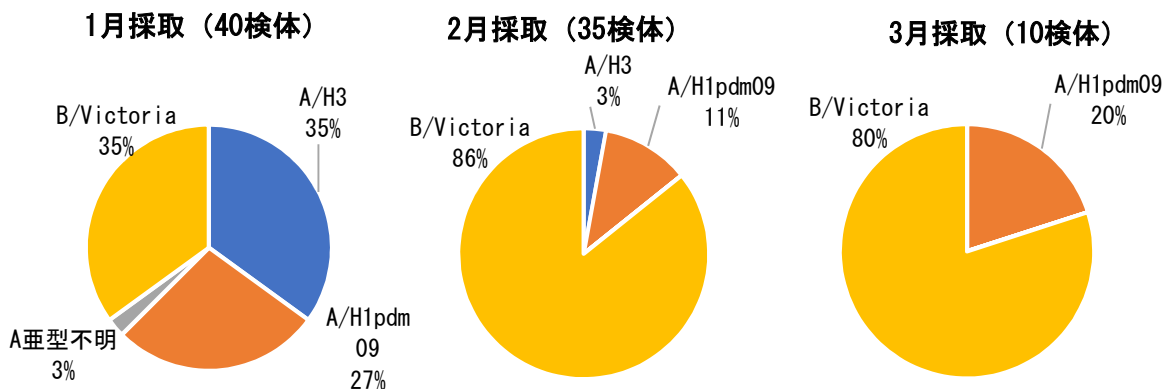
長崎県における定点当たり報告数の推移



長崎県における年代別患者報告数



直近3ヶ月に採取されたインフルエンザ検体からの亜型・系統別検出割合※



※長崎県環境保健研究センターにおいて月に1回実施された検査結果を集計

☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2024年第11週：3月11日から3月17日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID-19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）公表しています。

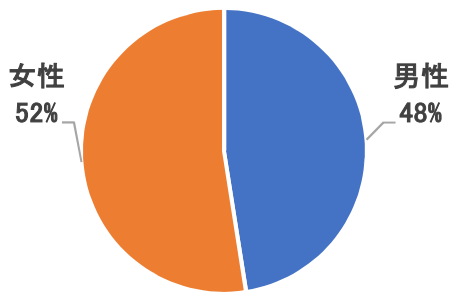
2024年第11週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は「8.17」で、2週続けて増加しました。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

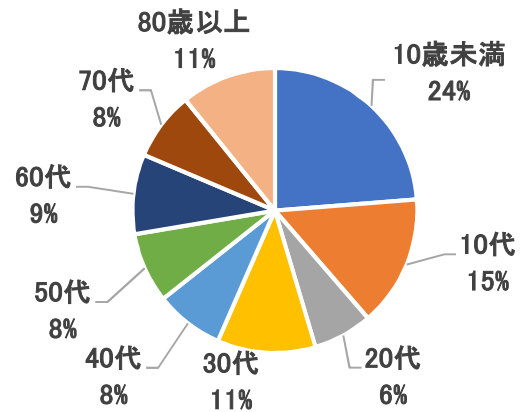
	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	564	140	37	35	61	62	44	12	53	18	102
定点数	69	17	11	6	10	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	8.17	8.24	3.36	5.83	6.10	7.75	11.00	3.00	17.67	6.00	34.00

※県央保健所管内に休診の医療機関があるため、第11週においては、定点数が全体で「69」となっています

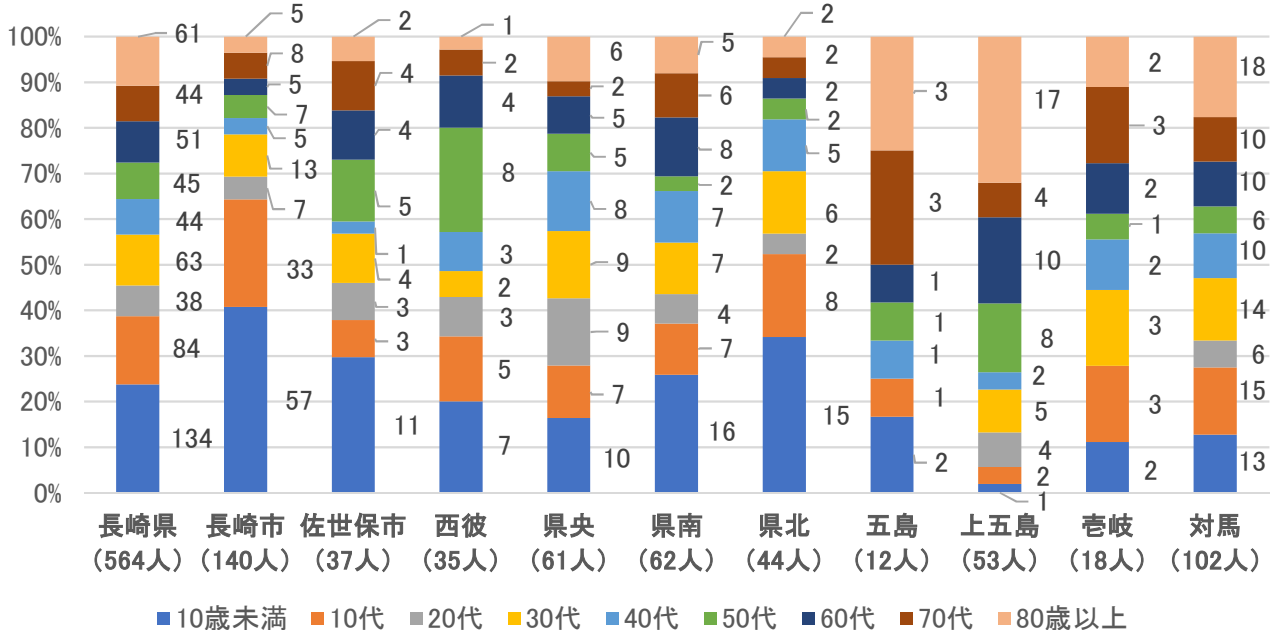
性別割合



年代別割合



保健所別年代別報告数



※年代別の報告数は、感染症発生動向調査における年齢区分の報告をもとに年代ごとに集計したものです。

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（30代・1名、60代・1名、70代・1名） 女性（50代・1名、80代以上・2名）  
 無症状病原体保有者 男性（70代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症（全数把握対象）：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（10歳未満・1名） 女性（60代・1名）  
 梅毒 患者 女性（20代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第6～11週、2/5～3/17)

疾患名	定点当たり患者数					
	6週	7週	8週	9週	10週	11週
	2/5～	2/12～	2/19～	2/26～	3/4～	3/11～
インフルエンザ	28.01	22.74	21.07	18.83	21.42	20.58
新型コロナウイルス感染症	12.24	9.87	7.26	6.19	7.07	8.17
RSウイルス感染症	0.02		0.12	0.14	0.05	0.21
咽頭結膜熱	1.98	1.00	0.98	1.21	0.93	1.30
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	4.89	3.64	2.86	3.74	4.79	4.42
感染性胃腸炎	3.93	2.64	3.16	3.88	5.30	4.19
水痘	0.16	0.32	0.05		0.09	0.05
手足口病	0.41	0.23	0.14	0.21	0.42	0.42
伝染性紅斑（リンゴ病）		0.02				0.02
突発性発しん	0.18	0.23	0.28	0.14	0.35	0.30
ヘルパンギーナ	0.07		0.02		0.07	0.02
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）			0.07			
急性出血性結膜炎	0.13	0.13		0.13	0.13	0.13
流行性角結膜炎	0.50	0.75	0.88	0.63	1.00	1.25
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎					0.17	0.08
マイコプラズマ肺炎			0.08			0.08
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第11週、3/11～3/17) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	20.58	18.27	35.76	13.67	17.83	18.80	17.25	28.75	3.00	0.67	2.67
新型コロナウイルス感染症	8.17	3.36	8.24	6.00	5.83	6.10	7.75	11.00	3.00	17.67	34.00
RSウイルス感染症	0.21		0.10				1.60				
咽頭結膜熱	1.30	0.33	0.30	3.00		1.67	0.60	6.67	3.00		1.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	4.42	1.67	1.90	5.00	4.50	2.33	17.20	0.33	5.33	2.50	5.50
感染性胃腸炎	4.19	4.50	7.40		5.50	4.83	2.80	4.00	0.67		
水痘	0.05					0.17			0.33		
手足口病	0.42		0.60		2.25	0.33		0.33			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02					0.17					
突発性発しん	0.30	0.83	0.50			0.17	0.20	0.33			
ヘルパンギーナ	0.02					0.17					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	1.25						7.00		3.00		
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎	0.08	1.00									
マイコプラズマ肺炎	0.08				1.00						
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											